



2019年度 相次ぐ災害への対応

震災がつなぐ全国ネットワーク(震つな)代表
 東日本大震災支援全国ネットワーク(JCN)代表世話人
 災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)幹事
 愛知県被災者支援センター長
 東日本大震災被災者支援ボランティアセンターなごや運営委員
 NPO法人全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)代表理事

認定NPO法人レスキューストックヤード(RSY)代表理事
 栗田暢之

令和元年8月の前線に伴う大雨

● 被害状況

2 人的・物的被害の状況 (消防庁情報: 9月9日9:00現在)

(1) 人的・建物被害

都道府県名	人的被害					住家被害					非住家被害	
	死者	行方不明者	負傷者			全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	公共建物	その他
			重傷	軽傷	程度不明							
人	人	人	人	人	棟	棟	棟	棟	棟	棟	棟	
北海道									1	12		
青森県										2		
岩手県									1	3		
宮城県										3		
山口県						2		1		12		
福岡県	1			1				1	130	375		
佐賀県	3		1			5	1	4	1,620	2,607		6
長崎県								2	21	67		2
熊本県										1		
大分県								1		2		
合計	4		1	1		2	1	9	1,773	3,084		8



- **災害ボランティアセンター**の開設(HPで要確認 <https://www.saigaivc.com/>)
 - ・福岡県・・・筑後市(9月1日終了・197名)・久留米市(相談窓口終了)・八女市・広川町(通常VC)
 - ・佐賀県・・・佐賀市・多久市・武雄市・小城市・大町町(8月31日～9月25日・10,263名)
 - ・佐賀県武雄市・・・地元民間主導による「おもやいボラセンティアセンター」が設置
- **佐賀災害支援プラットフォーム緊急対策会議(三者連携)**
 東日本大震災「佐賀から元気を送ろうキャンペーン」で集った29団体で構成。災害時の連携・協力で佐賀県と協定を締結。8月29日以降毎晩開催(9月9日からは週2階)。約50団体が参加。
- **福岡県情報共有会議**
 8月30日・9月6日に開催。約40団体が参加。県内の被災状況や佐賀県への支援も協議。

水害発生から3日間ぐらいまでの状況
～JVOAD先遣隊の報告より



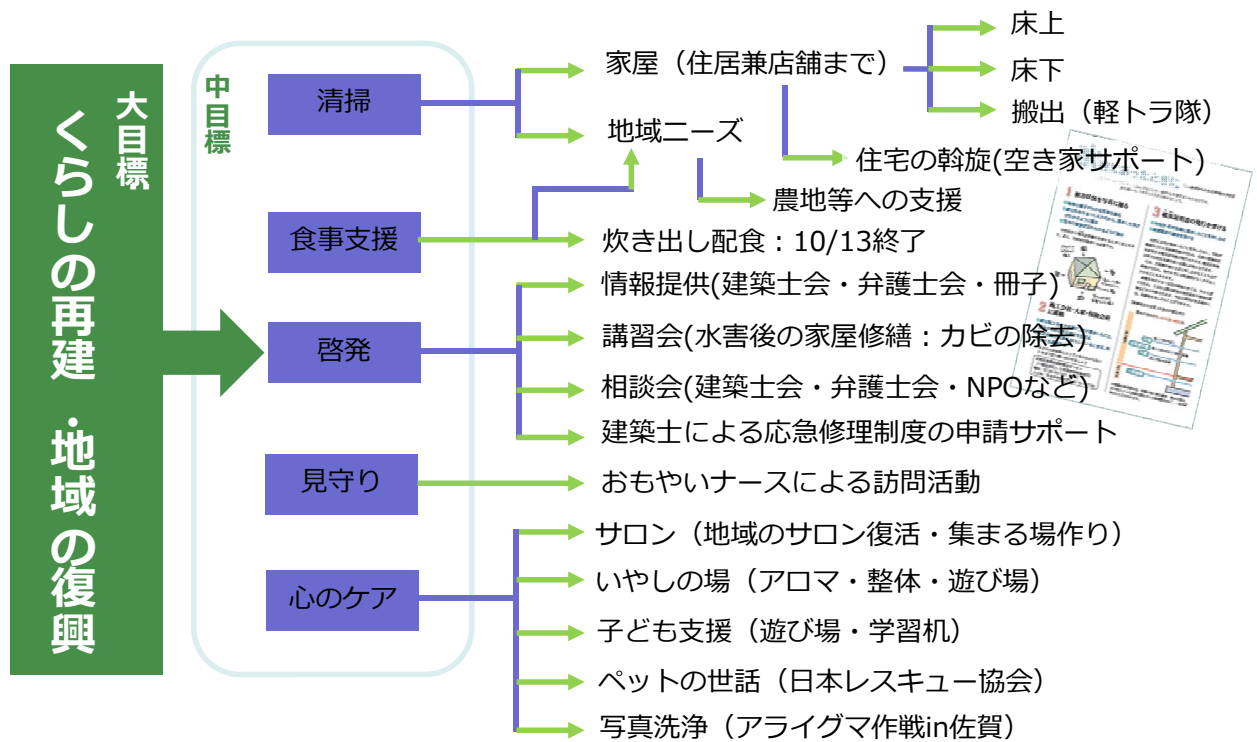
今後の支援

- ◆ 「片付け」「+床下対応」「+油対応(大町町)」
- ◆ 「避難所(9月4日・避難指示は全解除)」
- ◆ 「田んぼなどの生業支援(補償問題)」「家・暮らしの再建(大町町では、被害認定の弾力化や災害救助法の特別措置などもあり)」

- 片づけは9月2回の3連休までがピーク。
- 床下対応に長けた技術系NPOが連携し、大町町に拠点を整備。個人ボランティアでは難しい作業や地元の方々を対象に研修会を開催。
- 武雄市のボランティア団体等が連携し、民間主導の「おもやいボランティアセンター」が設立。佐賀県弁護士会や佐賀県建築士協会とコラボし、集落単位での「暮らしの相談会」を開催するなど、地元主体で息の長い支援を模索。
- 県域の支援活動を情報共有するための「佐賀災害支援プラットフォーム緊急対策会議」のフォローアップ。

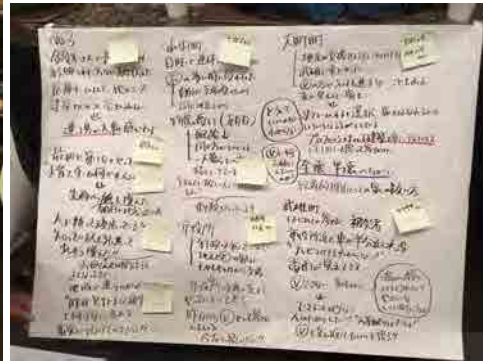
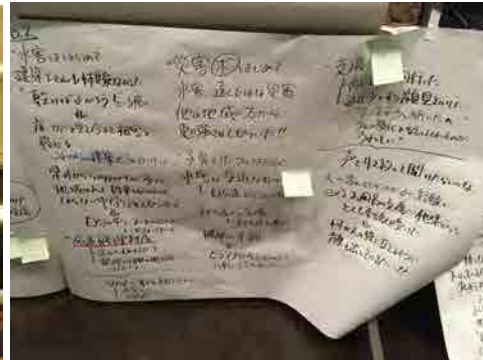


おもやりボランティアセンターの目標と活動



これからについて (おもやいカフェvol.2)

おもやい



10

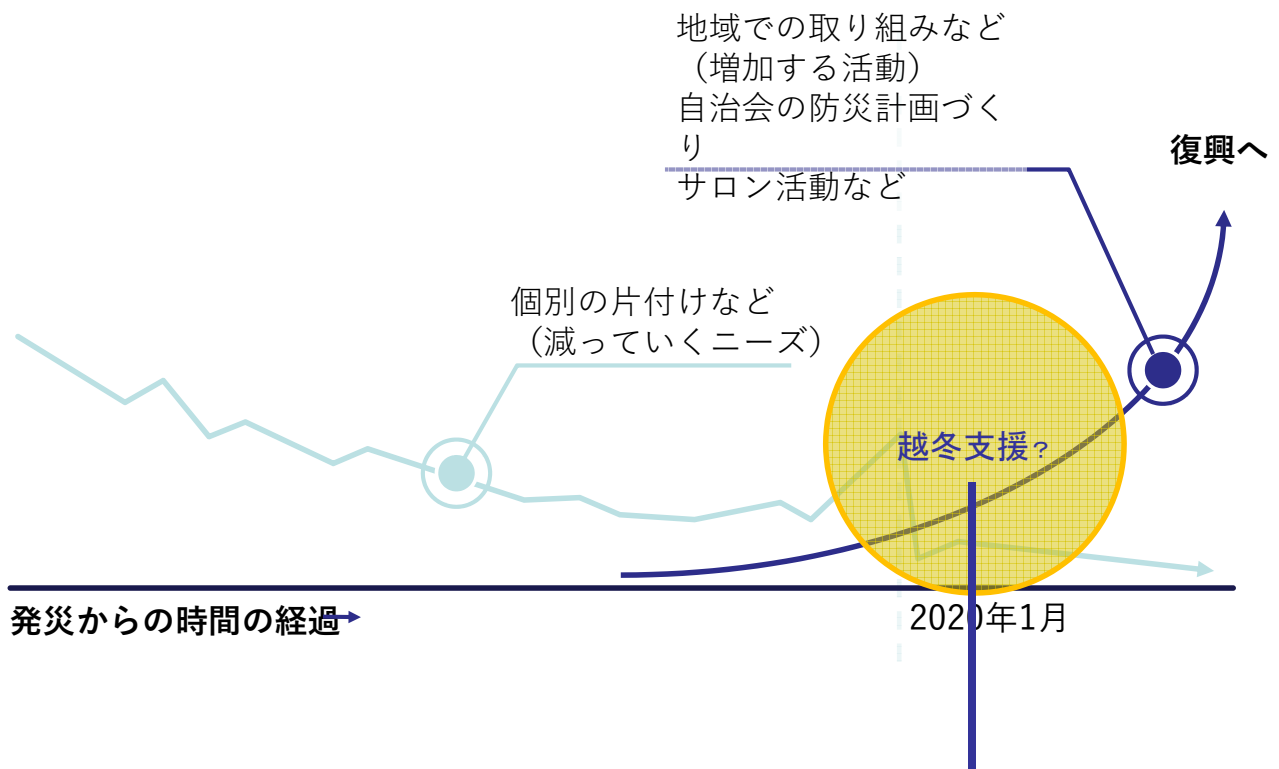
おもやい建築士による現地調査

おもやい



これからについて（イメージ）

おもい



被災した方々にホットカーペットを届けよう

震災がつなぐ全国ネットワークでは、令和元年8月九州北部豪雨災害の発災以来、佐賀県武雄市に拠点を置く「おもいボランティアセンター」と連携をしながら活動を展開してまいりました。

これまでに被災者の方を対象とした「家の相談会」などを実施しております。

今回は、これから本格化していく冬を乗り越えるため、被災者の方々にホットカーペットをお配りするプロジェクトをおもいボランティアセンターと連携して実施します。

一口7000円で1畳分のホットカーペットをお届けすることが出来ます。

台風15号

- 停電934,900→0戸(高圧線復旧困難、低圧線や引込線上の障害等により一部停電あり)
断水127,307→解消／避難者9箇所49人(10月7日現在)
- 屋根瓦・外壁などの損壊・室内外の散乱、雨による二次被害の拡大、通電火災、災害ごみ処理
- 被害状況(いまだ全容把握には至っていない)

2 人的・物的被害の状況(消防庁情報:10月7日17:00現在)

(1) 人的被害・建物被害

都道府県名	人的被害					住家被害					非住家被害	
	死者 人	行方不明者 人	負傷者			全壊 棟	半壊 棟	一部破損 棟	床上浸水 棟	床下浸水 棟	公共建物 棟	その他 棟
			重傷 人	軽傷 人	程度不明 人							
福島県						1				5	6	
茨城県			1	23		5	35	2,712				13
栃木県				1				3				
埼玉県			1	9				15	1			
千葉県			2	74		195	1,905	32,065	40	70		55
東京都	1			7		9	91	1,533	13	9		197
神奈川県			3	10		4	21	1,570	30	32	83	487
静岡県				13			2	38		2	1	
合計	1		12	137		214	2,054	38,036	89	118	84	752



- 災害ボランティアセンターの開設(HPで要確認 <https://www.saigaivc.com/>)
千葉県内22→14市町・東京都大島町で災害VC・社協VCで受け入れ(9月7日～25日13,980名)。

● 千葉県情報共有会議(三者連携)

9月17・26日。千葉県・千葉県社協・地元NPOらによる現段階での情報共有と今後の支援策の方向性を確認。一般ボランティアと専門ボランティアのそれぞれの役割を果たそう！約40名参加。

● ブルーシート対応会議

9月17・18日、県・内閣府・国交省(建設業協会)・自衛隊・消防・JVOADがブルーシート張りへの対応を協議。圧倒的な被災者ニーズに対する官民連携による支援策と技術系NPO等による講習会の開催など。自衛隊は「人命救助」の任を終えたとして9月末で撤退。

今後の支援

- ◆ 停電・断水はほぼ解消
- ◆ 暴風とその後の雨、台風17号でも被害が拡大
「片付け」「+屋根対応」が急務な課題
- ◆ 今後は「家・暮らしの再建」が深刻化
(被害認定調査の効率化・迅速化に異例の通知、一部損壊(10%以上)で30万円の支援制度創設)

- 被災家屋の全容を含め、当面の暮らしの目途が立つまでも、1か月以上は必要。
- 片づけ、特に屋根対応は喫緊の課題。自衛隊・消防・建設業協会・技術系NPOとの官民連携。
- 当面の暮らしの後には、家・暮らしの本格再建が必要。それには、「かかる費用はどのくらいか」「支援しどれくらいあるか」などの情報が必要。こちらも官民連携による「暮らしの相談会」を開催などが必要。
- 県域の支援活動について情報共有するための「千葉県情報共有会議」の開催支援。

→台風19号でさらに被害拡大





現場対応と講習会(合計10回開催)



2018年大阪北部を震源とする地震への支援活動を行うみなさまへ
災害に向き合うための勉強会
 ～今回の被災を機会に現場から学ぶ～

第7弾in茨木 長持ちするシートの張り方

全壊14、半壊327、一部損壊44,166 (8/8大阪府発表)

一部損壊の多くが屋根の損傷。屋根の修理が終わるまでシートは残り続けますが、張りを工夫することにより、劣化を抑えることができます。長持ちする張り方のコツを大阪のみなさんで学びませんか



日時:2018年9月2日(日)16:00~18:00 ※雨天中止
 会場:茨木市役所本館東玄関前人工台地(本館東側)
 参加費無料、申込不要、当日会場へお越しください
 お問い合わせ:070-3149-9333(茨木ベース代表電話)

実施主体:茨木ベース(代表:レスキューアシスト)
 日本警察消防スポーツ連盟BORDERLESS FIRE
 協力:茨木市社会福祉協議会/震災がつなぐ全国ネットワーク
 おおさか災害支援ネットワーク(OSN)/日本財団



長持ちするブルーシートの張り方

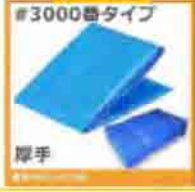
防水テープ 応用バージョン
(自衛隊・消防・高所作業建築系経験者・技術系災害救援NPO)

作成 千葉県 台風15号被害
ブルーシート救援
NPO団体検討委員会

協力：特定非営利活動法人 JVOAD
宮城：特定非営利活動法人
災害救援レスキューアシスト

材料

ブルーシート



※厚手 #3000タイプ
※重量約4kg(1.5m×3m)※
※3000番以上がベスト
※3.0×5.0m(重量約10kg)※
2000円

防水テープ (ユースタイル低圧)



※70×1000mm程度
※厚手の防水テープでもよいが、ユースタイル
※20mm厚、粘りが、粘りすぎると剥がれやす
※、粘り強くない

マイカ膜 (ビニールハウス用)



※メリットによって用途が異なる(1)では、
※テープ、ハウス用、ハウス用、
※ビニールシート)
※重量約1kg(1.5m×3m)※
※二重、粘り強くない
※500円2000〜3000円

施工する前に

- ・屋根の上では必ず2名以上で作業をしてください
- ・落下防止のため、必ず命綱をハリハーンズ又は安全帯を着用してください
- ・瓦の上に土や割れた破片が横たっている場合は取り除いてください
- ・雨天、または強風時には屋根での作業は大変危険です
- ・ヘルメットを必ずかぶってください
- ・ハシゴ・脚立は平行な場所に設置して、必ず固定してください
- ・物を屋根に上げる時はロープなどで上げてください
- ・ハシゴに登る時は、物を持たずに両手を使って登ってください
- ・屋根に上がった後、できるだけ互と互の重なる部分を多くするようにしてください
長尺に渡って濡れている屋根は腐っている場合もあり、互のない部分は踏み抜く
事があるのでご注意ください
- ・屋根の上では物が落ちやすく危険なので、必ず固定してください
- ・ブルーシートはあくまで「応急処置」であり、通常3〜6ヶ月で劣化します

施工方法

- ※ポイント
- 【手順1】
山の斜面に貼ると屋根の向きで土が落ちる可能性がある(ハーンズでも無い)に間にテープを貼る
 - 【手順2】
防水テープはブルーシートの中程から左右に重なるように貼る
 - 【手順3】
防水テープは必ず互の重なるように貼る
 - 【手順4】
防水テープを貼るとした後は必ず互の重なるように貼る



アシスト瓦を使う場合



土嚢の置き方



ダメな例



瓦を踏む場所

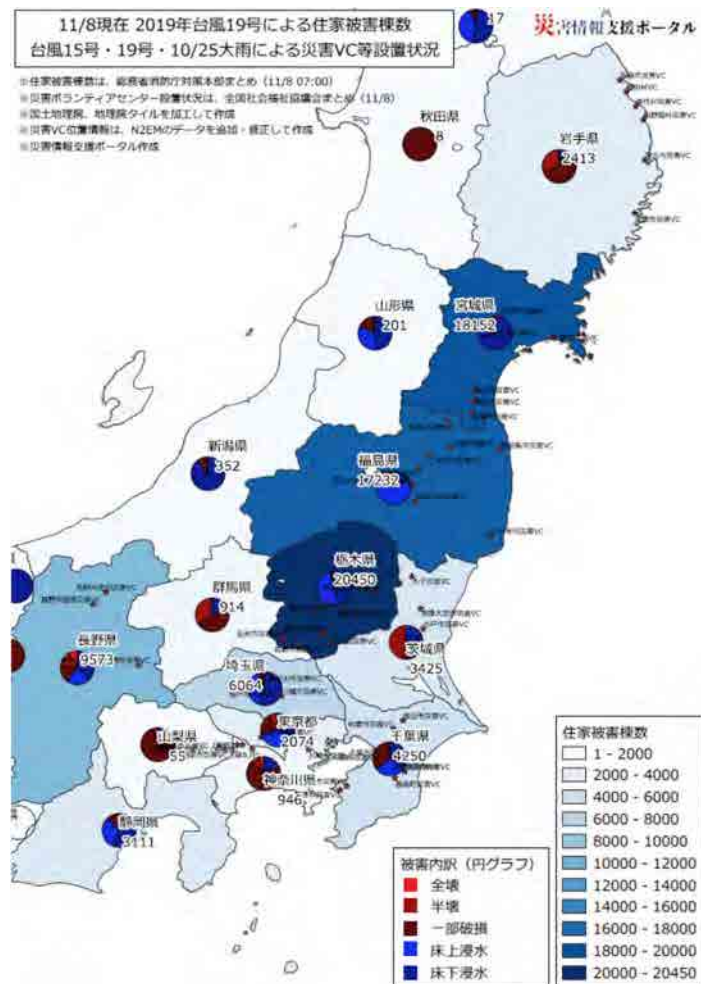




台風 19号

災害救助法適用
14都県
391市区町村

(東日本大震災)
10都県
241市区町村





岩手県田野畑村



岩手県久慈市



岩手県普代村



宮城県大郷町



宮城県角田市



宮城県丸森町



福島県相馬市



福島県郡山市



福島県いわき市



栃木県那須烏山市



栃木県栃木市



栃木県佐野市



茨城県常陸大宮市



茨城県水戸市



茨城県太子町



埼玉県東松山市



埼玉県川越市

台風19号に関する
埼玉県情報共有会議
緊急招集!
 埼玉県内において災害支援を行う団体であれば参加できます

第1回埼玉県情報共有会議 (主催: 彩の国会議)
 ◇日時: 10月23日 (水) 19:00~
 ◇場所: 川越市総合福祉センター「オアシス」3階

可能な方は事前にフォームでお申し込みください
 →情報共有会議出席フォーム <http://bit.ly/saitamak>





20191111長野市穂保

最低気圧915hPa
最大風速55m/s

強風域が本州の半分以上を覆うほどの大型で、勢力も強かったため、大雨に加えて暴風、高潮などを伴う広範囲の被害に繋がった。

○災害救助法適用

14都県391市区町村(非常災害・激甚指定)

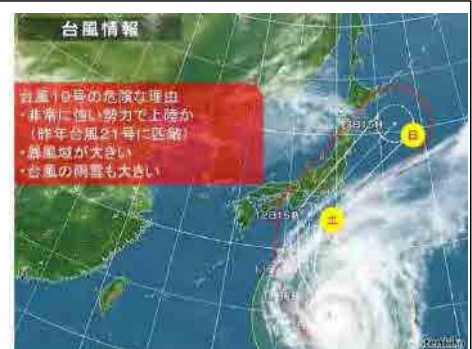
○災害ボランティアセンター

岩手県・宮城県・山形県・福島県・茨城県・栃木県・群馬県・埼玉県・千葉県(台風15号から継続)・東京都・神奈川県・新潟県・長野県・静岡県

・12都県109→10箇所で開催
・約18.5万人が活動(12月11日現在)

○情報共有会議

宮城県・福島県・茨城県・栃木県・埼玉県・千葉県(台風15号から継続)・東京都・長野県・静岡県・全国(内閣府・全社協・支援P(中央共募)・JVOAD)
・450団体のNPO等が参加



強風域の半径の大きさ	
台風の大きさ	超大型 (半径500km以上) 800km以上
	大型 (半径400km) 500km以上 800km未満
中心付近の最大風速	
台風の勢力	猛烈な 54m/s以上
	非常に強い 44m/s以上 54m/s未満
	強い 33m/s以上 44m/s未満





丸森町内のこのお宅は新築2年、床上1m以上で「大規模半壊」リフォームの見積りは「約1千万円」(保険に入っていたから我が家はまだいい。お隣は入っていないため、とても心配されている。>奥様談)

- ・左の写真は石膏ボード剥がし。剥がした向こう側の階段の部分にはすでにカビが発生。
- ・右の写真は、床下対応で、90cm角にコンパネを切り取ると、床一面の断熱材が、びしょびしょになっていて、床下には水が溜まっていた。
- ・コンパネの床下側の面には、やはりカビが発生。

【20191106OJ肥田氏アテンドにより栗田撮影】



全国情報共有会議

※コアメンバー／全国社会福祉協議会、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)、全国災害ボランティア支援団体ネットワーク(JVOAD)、内閣府(防災担当)

□ 12月3日(火)18:30～@飯田橋セントラルプラザ・東京

□ 行政・社協・NPO・企業・マスコミなど101名参加

◎ 長野県長野市など／長野県NPOセンター事務局長・山室秀俊氏

「ONE NAGANO」を共通スローガンに、いまだニーズが高い泥出しに加え、リンゴ園などへの農業ボランティア、地域コミュニティ支援(炊き出しやサロンなど)を求めている。

◎ 宮城県丸森町／仙台弁護士会・小野寺宏一氏

まだ土砂に埋まっている家々もあるが、役場機能も元々脆弱で「先が見えない」状態。災害VCは年越しか。当分の間は外部支援も必要だが、数も少ない。とても焦っている。

◎ 福島県・いわき市／いわき市社協・篠原洋貴氏

「終わっているだろう」と思われているが、泥出しの残ニーズが150を抱え、ボランティアはまだまだ必要。見守り支援もこれから必要になってくるが、各行政区に依頼したばかり。

● とちぎボランティアネットワーク代表理事・矢野正広氏

被災は全国一なのに「災害モード」になっていない。外部支援も僅少。完全に取り残されている。

● 茨城NPOセンター・コモンズ代表理事・横田能洋氏

泥出しは一段落。県社協・茨城大・コモンズで「ぬくもりプロジェクト」を開始し、ソフト支援を展開。



マスコミ等の協力も得て風化防止を。「災害はまだ終わっていない」。義援金も支援金も足りない。

今後の支援

- ◆ 被害の実態がまだわからない地域もある。
- ◆ 泥出しの段階で年内いっぱいどころか年を越す地域もあり、ボランティアをまだまだ大募集している地域がある。
- ◆ 床下の技術的な対応(泥出し・消毒)を徹底したいも、技術系NPOの量的限界。住民向け講習会も開催。
- ◆ 本格的な冬が到来し、被災者の心身の健康が心配。炊き出しや足湯、サロンなど、癒し系の支援活動は急務な課題。特に、台所・洗濯等、普段の暮らしができない「在宅被災者」への具体的な対策を含めた地域コミュニティの再生が課題。
- ◆ こうした活動を支える地元NPOや社協へのサポート(人・資金の応援、ノウハウの提供等)が各地で必要。地元はフラフラ。

こうした段階を経て・・・

最低限、人が暖かく暮らせる住環境の確保、法・制度の丁寧な解説による一人ひとりの「暮らし再建」の支援、りんご園などの生業支援など、息の長い取り組みが必要！

明日は我が身 ～東海豪雨水害から来年で20年

